

平成 21 年度 吹田を知る【地域福祉編】

「地域の人と協働できる職員育成のための地域福祉活動体験実習」

報 告 書

平成 22 年（2010 年）3 月

吹田市 福祉保健部 地域福祉室 福祉総務課

1 吹田市地域福祉計画について

平成 18 年（2006 年）5 月に「いのちとくらしを守り、一人ひとりが輝くまちづくり」をめざして策定した「吹田市地域福祉計画」は、市民の自主的な地域福祉活動を活発化し、行政もその役割を発揮しながら、協働して、市民一人ひとりの地域でのくらしを支えるための仕組みをつくっていかうとするものです。

この計画の推進にあたっては、公と民それぞれの役割を明確にしながら、市民参加と公民協働で進めていく必要があります。

2 吹田市地域福祉計画推進の経過

吹田市地域福祉計画策定後は、①地域福祉計画の周知、②地域福祉活動や行政サービスの周知、③地域福祉について考える場の提供、という3点に主眼を置いて推進してきました。具体的には、地域福祉市民フォーラムの開催、地域福祉読本の作成、市報やホームページなどでの PR などを行いました。

また、公民協働で計画を進めていくためには、職員が地域に出向き、住民の皆さんと一緒に地域の課題を考えていくことが必要であることから、①吹田市民生・児童委員協議会の各地区委員会に出向いての地域福祉講座、②吹田市社会福祉協議会地区福祉委員会への全地区でのヒアリング、③吹田市地域福祉計画推進モデル地区の設定などを行ってきました。

しかし、地域福祉計画を公民協働で進めていくにあたり、市職員がもっと地域に出てきて、一緒に地域の課題を考えてほしいという声が多くあがっています。また、「地域福祉」についての職員への理解をもっと深めていくことが、公民協働における「公」としての役割を果たすことにつながることから、職員への意識啓発が現在の課題です。

3 地域福祉活動体験実習実施の目的

- (1) 市民と行政のパートナーシップで地域福祉計画をすすめていくため
- (2) 地域福祉計画や地域福祉活動について職員への周知をはかるため
- (3) 実際に地域福祉活動に参加することで、民の役割である「地域福祉活動の推進」を理解し、地域福祉計画や地域福祉推進における公民協働についての理解を深めるため

4 参加者数及び内訳

(1) 参加人数 36名(平成20年度 28名)

(2) 所属別

総務部	人事課	1名	建設緑化部	交通政策課	1名
	職員研修所	2名	水道部	工務室	1名
	情報政策課	1名	福祉保健部	福祉総務課	3名
政策推進部	政策推進室	1名		生活福祉課	1名
財務部	市民税課	1名		亥の子谷地域保健福祉センター	1名
自治人権部	人権平和室	1名		総合福祉会館	5名
	男女共同参画室	1名		介護保険課	1名
産業労働にぎわい部	産業にぎわい創造室	1名		障がい者くらし支援室	2名
児童部	わかたけ園	1名	学校教育部	教育総務課	1名
環境部	環境政策課	1名	地域教育部	生涯学習課	1名
	地球環境課	1名		自然体験交流センター	1名
都市整備部	建築課	2名		青少年クリエイティブセンター	1名
	住宅政策課	1名	体育振興部	南吹田市民体育館	1名
	千里再生室	1名			(14部27室課)

(平成20年度 10部21室課)

(3) 役職別

課長代理級 1名 係長級 9名 係員 26名

(平成20年度 課長級 1名 課長代理級 2名 係長級 3名 係員 22名)

※平成21年4月1日採用の職員7名を含む

5 事前説明会

●日時：12月17日(木)午後1時30分～午後4時

●場所：市役所研修室

- 内容：1 吹田市地域福祉計画について(30分)
2 社会福祉協議会(コミュニティソーシャルワーカー)
地区福祉委員会活動について(40分)
3 コミュニティソーシャルワーカーとの座談会(60分)
4 体験実習について説明
5 アンケートについて説明

●配布資料

次第、体験実習参加希望調査票、地域福祉計画説明パワーポイント資料

アンケート、グループ分け図

平成20年度「地域の人と協働できる職員育成のための地域福祉活動体験実習」報告書

地域福祉計画概要版、地域福祉読本、地域検討会(地区の福祉を語るつどい)報告書

第4期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画概要版

こども笑顔輝きプラン(次世代育成支援行動計画)概要版、第2期障がい福祉計画概要版

社協案内、コミュニティソーシャルワーカー活動報告書

6 地域福祉活動体験実習への参加

●実施時期 平成22年(2010年)1月から3月

●子育てサロン 8地区 ●いきいきサロン 6地区(うち1地区は2回)

●原則として社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー1名、福祉総務課職員1名が同行

活動名	月日	時間	場所	参加者数
佐竹台地区子育てサロン	1月18日(月)	10:00~	佐竹台市民ホール	3
佐井寺地区子育てサロン	1月20日(水)	10:30~	佐井寺地区公民館	2
山五地区いきいきサロン	1月22日(金)	13:00~	山五地区公民館	3
五月が丘地区いきいきサロン	1月25日(月)	13:00~	東佐井寺地区公民館	2
山三地区子育てサロン	1月28日(木)	9:30~	亥の子谷コミュニティセンター	3
豊一地区いきいきサロン	2月1日(月)	10:00~	豊一市民センター	3
桃山台地区いきいきサロン	2月3日(水)	14:00~	C1集会所	3
千三地区いきいきサロン	2月5日(金)	10:00~	千里山西デイ	2
北山田地区子育てサロン	2月5日(金)	10:30~	北山田地区公民館	2
吹一地区子育てサロン	2月18日(木)	10:00~	内本町コミュニティセンター	3
青山台地区子育てサロン	2月19日(金)	10:30~	青山台市民ホール	2
古江台地区いきいきサロン	2月22日(月)	13:30~	古江台市民ホール	3
豊一地区いきいきサロン	2月25日(木)	13:00~	豊一地区公民館	2
千里新田地区子育てサロン	3月3日(水)	10:00~	千里山竹園児童センター	3
吹二地区子育てサロン	3月4日(木)	10:00~	吹二地区集会所	4

延べ参加者数 40名(子育てサロン、いきいきサロン両事業への参加者数4名)

※以降、「コミュニティソーシャルワーカー」を「CSW」と表記します。

7 地域福祉活動参加報告

※時間については、サロンの開催時間ではなく、実習として参加した時間（準備や反省会への参加も含む）となっています。

佐竹台地区子育てサロン		1月18日(月)10:00~11:30			
実習者	山本 丈浩(福祉総務課) 宮下 直己(障がい者くらし支援室) 加藤 真理子(建築課)	担当	伊勢田	社協	加島
内容	<p>10時に実習者とともに佐竹台市民ホールに到着。 準備のために早くと思っていたが、到着すると受付などの会場設営はすべて終わっており、すぐに実習者と地区福祉委員さんとの自己紹介を行う。 自己紹介の後、地区福祉委員長より子育てサロンの説明を受ける。 佐竹台地区の子育てサロンは、平成19年10月にサロンを開設したが、第1回目は、参加者で部屋がいっぱいになったが、最近は参加者数も落ち着いてきているとのこと。 また開設当時は自治会の掲示板等にチラシを掲示していたので、またもう一度PR方法を考える時期に来ているのではないかとのこと。 10時をすぎると徐々に参加者が見え始め、サロンが始まる。 参加者の話を聞くと何度か参加させてもらっており、しばらく参加できなかったが、楽しいので久しぶりに来ましたと話していた。 10時20分ごろに南千里保育園の保育士が来て、地区福祉委員さんとともに子どもと遊びながら、参加者の悩みに応じていた。 11時になると、ペットボトルと便座カバーでつくったおもちゃで遊び、そのあと紙芝居と手遊びを行い、11時30分にサロン終了。 子どもたちが帰り際に実習者に手を振っていたのが、印象的であった。 ＜参加者＞ 8名 ＜スタッフ＞ 4名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の子育てサロンへの参加親子の人数は少なかったが、なごやかな雰囲気の中、子育てサロンが開催されていることを実感できました。 ・各地域(今回は割と近接した地域だったにもかかわらず)ごとにそれぞれのカラーがあることに感心しました。また機会があれば、今度は多少泣かれても子どもと遊んでみたいと思います。 				



佐竹台地区子育てサロン

佐井寺地区子育てサロン		1月20日(水)10:00~12:00			
実習者	齋藤 伸吉(市民税課) 藤田 陽子(総合福祉会館)	担当	吉村	社協	西(謙) 野田
内容	<p>佐井寺地区の子育てサロンは、地域にある南ヶ丘保育園の保育士の協力を得て実施している点が大きな特徴である。</p> <p>まず、10時30分の開始には地区福祉委員長からあいさつがあり、その後、南ヶ丘保育園の保育士による歌と手遊びが行われる。その後、約1時間は、参加者は自由に遊ぶ。おもちゃなど遊具は全て南ヶ丘保育園から借りている。保育士2人も遊びに参加するため、その中で参加者の母親などは育児相談をしているようだ。</p> <p>実習者も子どもたちと遊びながらサロンに参加。保育士から、「市の職員さんに、こんなまちになってほしいという声をぜひ届けましょう！」と呼びかけがあり、参加者の母親から、常設で子どもたちが遊べる施設やサロンが欲しい、雨でも遊べる場所が欲しい、自分の時間が空いた時に気軽に行ける場所があれば、との声があった。</p> <p>参加者は26組と非常に多く、暖房器具が不要なほど部屋は熱気に満ちていた。</p> <p>最後は、歌体操をして終了。実習者は子どもたちや母親たちが笑顔で帰っていく様子を見守り、後片付けをして実習を終了した。</p> <p>保育士から、サロンや各種行事は午前中に開催されることが多く、午後の時間に参加できる行事を必要としている親子が多いとの話を聞いた。実習者は、高齢者も子育て中の親も、気軽にいつでも集える場所が欲しいという思いは同じだと実感したようだった。</p> <p><参加者> 26組 <スタッフ> 14名(うち、2名は南ヶ丘保育園保育士)</p>				
実習者の声	<p>・福祉委員会が活発に活動されているのが分かった。南ヶ丘保育園の保育士さんが遊具を持って参加され、やっぱり専門職の参加があると引き締まったものになるように感じました。</p> <p>・子育てサロン、いきいきサロンの両方に参加させてもらいました。子育て世代も高齢者の方も、気軽に行ける場所を求めておられるのがよくわかった。地域の中で住み続けるためには、制度以外の施策や地域の活動等が必要だと感じた。市民の声を直接聞くことも大事ですね。地域の地区福祉委員さんにもお会いできて、顔の見える関係づくりの一步にもなったと思う。</p>				

山五地区いきいきサロン		1月22日(金)13:00~15:30			
実習者	竹本 晴美(人権平和室)	担当	岡田 服部	社協	新宅
	坂尾 一枝(総合福祉会館)				
	佐藤 享(環境政策課)				
内容	<p>13 時前に山五地区公民館に実習生とともに到着。受付時にくじ引きにより班分けされ、実習者は各班に1人ずつ分かれ、地域の人達の輪の中に入った。</p> <p>開会の挨拶の後、2名の腹話術師によるショーが行われ、参加者たちの間には笑顔が見られた。</p> <p>その後、少し休憩し、スタッフの方が作られたぜんざいをいただいた。とてもおいしいと評判がよく、スタッフ達の労がねぎらわれていた。</p> <p>ぜんざいをいただいた後は、班対抗でのゲームになった。頭の体操として簡単なクイズを解き、手先の運動として小皿に盛られた小豆を一定時間に別の皿へ箸でどれだけ移し替えられるかを競い合った。皆楽しくゲームをされ、その最中にも笑顔が絶えなかった。</p> <p>15時過ぎになると、お誕生会として、1月生まれの方に花をプレゼントし、ハッピーバースデーの歌でお祝いをした。誕生日を迎えられた方々から一言ずつお言葉をいただいた。その中にはスタッフの方もおられ、「サロンにより、スタッフも参加者達から元気をもらっている。また元気をもらうことで、皆さんに元気を与えられるようになりたい。」という言葉が印象的だった。このようにお互いにいい影響を与えられることにより、サロンが活発になり、そこに参加される方が元気になっているようである。</p> <p>最後は手拍子と合わせての全体での合唱となった。</p> <p>終始、笑顔にあふれているサロンだった。ふれあい昼食会や世代間交流事業と合同でいきいきサロンを行うこともあるようだ。</p> <p><参加者> 30名 <スタッフ> 10名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の委員の方が自ら色々工夫し、自らも楽しみながらサロンを運営され、参加された高齢者の方たちも本当に楽しそうにしておられて驚きました。88歳の女性の方が、真剣にゲームに興じている姿が印象的でした。 ・机上の話だけでなく、直接、福祉委員の方のいきいき活動されている姿、高齢の方の笑顔に触れることができ、インフォーマルな活動がこれだけ活発なのに驚きました。 ・参加者も、お世話されている方もお元気だったので、私が元気をもらえて、ずっと笑顔で参加していました。 				

五月が丘地区いきいきサロン		1月25日(月)13:00~16:15			
実習者	柳田 ユリ(亥の子谷地域保健福祉センター)	担当	吉村	社協	新宅
	花田 奈穂美(障がい者くらし支援室)				
内容	<p>実習に先駆けて、担当 CSW より五月が丘地区の成り立ちや特徴、地区福祉委員会活動の概要などを聞く。今回の実習者は、二人とも高齢福祉課の元ヘルパーで、五月が丘地区を担当したこともあり、実情をよく知っての上での参加であった。</p> <p>昼過ぎから降り出した小雨により、出足が鈍くなるのではと地区福祉委員さんも懸念していたが、午後1時30分頃までに参加者が集まり、まずは2テーブルに分かれて百人一首大会を開催。男性の参加者は、スタッフ2名とともに麻雀大会をする。百人一首は、読み手も参加者で、スタッフも一緒になって楽しんだ。</p> <p>百人一首を2回行った後、スタッフ手づくりのおぜんざいで茶話会を開始。途中、1月に誕生日を迎えられた方を祝う場面もあった。次回の茶話会の開催を案内して、午後3時30分に終了した。来月は、定例茶話会以外に、年5回、マンションの集会所を借りて行っている「出張茶話会」もあるマンションで行われるようだった。</p> <p>サロン終了後は、スタッフは反省会と次回の企画を行っていた。実習者はCSWと意見交換を行い、こういったサロンの必要性やサロンを上げるために住民が尽力されていることを実感したと話していた。また、実際に障がい者サービスを扱う仕事をしていることから、障がい者分野での地域との連携、制度の狭間にいる人たちに対して、CSWと連携の上、いかに支援を行えるかなどについても意見交換を行った。今回のサロン参加をきっかけに、CSWとも連携して活動でき、また地域住民ともつながりができればとのことだった。</p> <p><参加者> 12名 <スタッフ> 8名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・希薄になりがちなコミュニティで、地区福祉委員会のボランティアにより、成り立っている貴重な活動だと思いました。地域福祉計画をすすめる上で、高齢者との交流は欠かせないものと思われました。 ・五月が丘地区のいきいきサロンに参加させていただきました。5年以上も通い続けていらっしゃる高齢の方々が、手を取り合って近況を話し合ったり、カルタとりで笑いあったり、私も楽しく過ごさせていただきました。 				



五月が丘地区いきいきサロン

山三地区子育てサロン		1月28日(木)9:30~12:30			
実習者	芦田 宏志(福祉総務課)	担当	吉村	社協	新宅
	大東 良平(生活福祉課)				
	西田 義則(自然体験交流センター)				
内容	<p>まず、担当 CSW より、山三地区の概要や子育てサロンの特徴について話を聞く。山三地区には亥の子谷コミュニティセンターがあり、地区福祉委員会活動のため、地区福祉委員の尽力で年間を通じて多目的ホールを確保することができ、サロン実施が円滑に行われているということだった。</p> <p>朝から雨が降っていたため、お母さんたちはバギーではなく抱っこで来ることになったが、20組の親子が参加。</p> <p>山三地区の子育てサロンは、プログラムを決めて親子と遊ぶ、育児教室のような形式で行っている。担当者は、子育て広場立ち上げの経験もある。近くの山三保育園の地域担当保育士も参加し、スタッフの声かけのもとプログラムが進められた。</p> <p>実習者は、子どもたちとボールで遊んだり、羽子板で遊ぶ風船をつなげたひもを持って子どもたちと遊んだりして、サロンに参加。節分も近く、アルミホイルでできた豆を鬼にぶつけるプログラムでは、鬼のお面をかぶって鬼の役で参加した。</p> <p>終了後、地区福祉委員さんの反省会にも参加。子どもたちのたくさんの笑顔のため、こういった活動が続けられるようにとの思いを持ったようだ。また、自然体験交流センターでは子どもから高齢者まで誰でもが使える施設になっているが、より利用しやすいようにプログラムを考案し、提案できるようにしていきたいとの意見もあった。こういった活動があることを知り、今後、他の職員にも活動のことを周知していきたいと話すと、また時間ができたときにちょっとでもサロンを覗いてほしいとの地区福祉委員さんからの声をいただいて実習を終了した。</p> <p><参加者> 20組 <スタッフ> 7名</p>				
	実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> • 皆さんすごく工夫されて楽しかったです。 • 参加にあたって、地域の特性等の下調べした上で、もっと目的意識(問題意識)を持って参加しても良かったかなと思いました。 			



山三地区子育てサロン

豊一地区いきいきサロン		2月1日(月)10:00~:12:00			
実習者	馬場 菜津子(福祉総務課)	担当	岡田	社協	河原
	佐野 直樹(介護保険課)				
	西岡 幸広(建築課)				
内容	<p>9時45分に到着。本日はいきいきサロンの健康体操、「お達者クラブ」として豊一市民センター会議室にて開催。以前、保健センター事業として行っていたもので継続して実施している。</p> <p>まず、健康チェックのため参加者の血圧を測っていた。</p> <p>実習者も参加者の輪の中に入って、自己紹介をして始まった。職員が地域に出向くことも説明した。福祉職場以外の建築課からも参加しており、歓迎してくれた。</p> <p>93歳の高齢者も参加しており、いすに座ったままでの体操で、終始和やかな雰囲気で行われていた。カレンダーを円め、用具の一つにし、工夫されて使用していた。</p> <p>参加者は、体操し、おしゃべりをするのが楽しみだと言い、月に1度でなく2回開催してほしいという声が出ていた。</p> <p>体操が終わり、11時30分から、お茶とお菓子でなごやかに歓談をしていた。</p> <p>14名ほど登録者がいるが、今日のように天気が悪いときや、当日具合が悪くなり来られない人もいるとのことであり、今日の参加者は少ないといていた。また、男性の参加者も少なくなっているとのことである。</p> <p>地区福祉委員さんは、会場の確保に苦慮していると言っておられた。</p> <p><参加者> 7名 <スタッフ> 2名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・実習自体は高齢者の方と楽しくおしゃべりして体操するだけなので、なんてことなかったのですが、この時間以外、この人たち以外の高齢の方が、どのように生活して、どのような形で支援を受けているのか考えると、まだまだ知らないことが多いと思いました。 ・月に1回、集まり、身体を動かしたり、話をする場があることで、高齢者の方の孤立を防ぐ大きな意味があると思いました。皆さん楽しそうで、良い場だなと思いました。 ・いきいきサロンに参加しましたが、日常の業務では体験できない地域の人たちと接する機会であり、有意義だったと思います。 				



豊一地区いきいきサロン

桃山台地区いきいきサロン		2月3日(水)14:00~16:00			
実習者	山本 丈浩(福祉総務課)	担当	伊勢田	社協	加島 森本
	長本 裕美子(総合福祉会館)				
	玉木 亮介(千里再生室)				
内容	<p>サロン開始に先立ち、桃山台地区福祉委員長より、サロンの開催について実習者に対して、経過説明があった。</p> <p>お菓子などを住民の方が自由に持ち寄り、集える場所みたいなものを描いていたが、実際は、みんなで体操やクラフトなどで楽しむ形式にしているとのこと。</p> <p>14時ちょうどにサロンが開始。本日の体験実習について参加者に説明し、実習者も自己紹介を行う。</p> <p>そのあと、声を出すことは体を元気にするということもあり、すいた市民塾の方の音頭に合わせて、参加者と一緒になって歌を歌う。できるだけ、部屋にこもっている方が参加してくれそうなものを選曲しているとのこと(曲目:スキー、春が来た、六甲おろし、銭形平次、憧れのハワイ航路)。その後、指体操を行い、吹田のうた、真室川音頭、銭形平次の曲にあわせて、健康体操を行う。</p> <p>15時になると、お茶タイムとなり、折り紙でお雛様をつくる。実習者も難易度の高さに困惑しながらも、地区福祉委員さんや参加者といろいろ話をしながら一生懸命折り紙に取り組んでいた。</p> <p>実習者は、いきいきサロンはよく耳にするが、実際に自分の目で、住民の方が、とても楽しんでいるのがとても印象に残りましたと話していた。</p> <p><参加者> 6名 <スタッフ> 6名</p>				
実習者の声	<p>・活動のことは日ごろよりよく耳にしていましたが、体験したのは初めてです。地域福祉活動を通して元気になるだけでなく、知人、友人となり、社会活動に参加できているという生きがいも感じていくと思えました。また、人とつながることで、安心感となり、助け合う気持ちも出始め、地域の方となっていくことだと思います。</p> <p>・だいたい想像どおりだったが、実際に体験できて、非常に良い経験となった。</p> <p>・各地域(今回は割と近接した地域だったにもかかわらず)ごとにそれぞれのカラーがあることに感心しました。</p>				

千三地区いきいきサロン		2月5日(金)10:00~12:00			
実習者	久永 和子(総合福祉会館)	担当	伊勢田	社協	西(謙)
	長崎 一馬(住宅政策課)				
内容	<p>サロンに向かう道中に、地区福祉委員会活動について CSW から実習者に説明。</p> <p>現在地区福祉委員会でいきいきサロンや子育てサロンが開催されているが、その源泉は、向こう三軒両隣の考えが基本となっており、それが、時代の変遷とともに一つの形になったとのこと。また、千三地区は、起伏の激しい地区なので、参加者が集いやすいようにと自治会単位でまとめ、活動を展開しているとのこと。今回、実習者が参加した緑が丘自治会では、いきいきサロンを月 2 回開催しており、歌おう会とクラフト作り(昨年度は歌おう会に参加)。また、開催場所は千里山西デいの 2 階であり、公設民営であるため、運営に寿楽荘が関わっており、地域の相談場所となっているとのこと。</p> <p>10 時前に千里山西デいに到着すると、すでに参加者の多くが集まっていて、フェルトを使ってつくるケーキのクラフト作りを始めていた。</p> <p>10 時ちょうどに CSW より参加者に体験実習の趣旨を説明し、自己紹介を行い、クラフトづくりが再開する。実習者は、サロンの参加者が熱心にクラフトを作る姿勢にとても驚いている様子だった。また、スタッフよりここでつくったものは、文化祭で展示されたりするが、常照園の子どもたちに寄付したとき、子どもたちが非常に喜んでくれたことがとてもうれしかったとのこと。</p> <p>実習者は、参加者と一緒になって、折り紙を折りながら談笑したりしていた。</p> <p><参加者> 20名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に活動に参加させていただくことで、地域福祉活動の意義を肌で感じる事ができた。 ・参加されておられるみなさんの集中力に驚きました。お世話する側、される側がそれぞれの立場で楽しみながら地域で長く生活できる環境ができていることが素晴らしいと思いました。 				



千三地区いきいきサロン

北山田地区子育てサロン		2月5日(金)10:00~12:15			
実習者	達脇 俊介(産業にぎわい創造室) 林 美紀(生涯学習課)	担当	吉村	社協	新宅 谷野
内容	<p>実習に先立ち、北山田地区の歴史や、北山田地区福祉委員会の活動についてCSWより説明を受ける。5年ほど前は、山一地区と共同で子育てサロンを実施し、北山田地区では2か月に一度の開催だったが、北山田地区で毎月開催をしてほしいとの参加者の声を受け、3年ほど前から毎月開催することになったという。親同士のつながりをつくることを目的としているため、特別なプログラムは用意していない。</p> <p>午前10時から準備を始めるが、午前10時30分の開始よりだいぶ前から、親子で続々と参加者が集まってくる。開始時間の午前10時30分になっても受付には絶え間なく親子が集まり、午前11時頃には部屋いっぱい子どもたちが遊んでいた。</p> <p>午前11時30分頃から、紙芝居や手遊び、エプロンシアターをスタッフが行った後、おやつタイムを経て終了。地区福祉委員さんは、周りから子どもたちを見守り、ストーブに近づいたり、段差のある和室にあがろうとしたり、外に出ようとしたりとといった危険から子どもたちをさりげなく見守ったり、子どもたちの遊び相手になったり、母親としてベテランの地区福祉委員さんが、泣いている子どもをあやしたりと、さりげないお手伝いと見守りをしながら、親同士が友達になったり情報交換をしたり、話をしたりといった場を提供していた。実習者も子どもたちの輪に入ったり、参加者の母親から話を聞かせてもらいながら、このサロンを実施している意義や、サロンのことを母親たちがどう感じているかを聞かせてもらった。実習者は、こういったサロンがあることで、親同士のつながりの場になっていることを実感し、サロンの必要性を強く感じたようだ。</p> <p>サロン終了後は、週末に行う昼食会の段取りやレイアウトの確認を地区福祉委員さんが行っていた。ひとつのサロンが終わっても、また次のサロンや活動のことを考え、地域の皆さんの笑顔のための活動を展開しているのだと思う。</p> <p><参加者> 17組36名 <スタッフ> 8名</p>				
実習者の声	<p>・講義だけでは分からないことも、現場へ行くことによってよく分かりました。このような活動を通して地域の輪がもっと広がっていけば良いと思いました。</p> <p>・今回初めて子育てサロンの見学に参加して、輪の中に入って行くのは少し難しかったが、子育てサロンがどういうものかを知ることができて、それだけでも良かったと思う。</p>				

吹一地区子育てサロン		2月18日(木)10:00~11:30			
実習者	福永 昌高(人事課)	担当	吉村	社協	玉井
	三坂 幸子(交通政策課) 林 由希子(教育総務課)				
内容	<p>最初に地区福祉委員長と担当 CSW から吹一地区の子育てサロンの概要について説明を受ける。吹一地区子育てサロンは、他地区からの参加も多く、サロンで友達になったお母さんたちが多いとのこと。内本町コミュニティセンターという立地の良さもあり、近隣地区からの参加も多いようだ。また、地域に住む退職した保育士さんや、元園長、あるいは、吹一保育園の保育士さん、保健センターの母子保健担当の保健師など、専門家と一緒に子育てサロンを運営しているとのことだった。吹一保育園と連携して花見に行ったり、吹一保育園のプールを使わせてもらうなどの工夫をしているとのことだった。ただ、場所の確保が問題であり、半年間のプログラムしか組むことができない。</p> <p>午前 10 時頃から参加者が集まりだし、マットを敷いておもちゃを置いておくと、子どもたちは思い思いに遊び、お母さんたちは親交を深めていた。10 時半頃になると、地区福祉委員長の声かけで、プログラムが始まる。今日のプログラムは、地域に住む元保育園長によるリズム遊びで、ピアノを弾きながら子どもたちと一緒に体を動かしていた。子どもが二人いる場合、お母さんとペアになっての体操ができないので、実習者が入って一緒に子どもと遊んでいた。また、リズム遊びをせずに脇で遊んでいる子どもは、そのままに子どもを遊ばせて、無理に参加させないようにとのこともあり、脇で遊んでいる親子に、子育て支援についての話を聞きながら子どもと遊んでいる実習者もいた。</p> <p>今日は、保健センターの保健師が参加し、冬の過ごし方や風邪の予防法についての話があった。参加者は、サロンに来て気軽に保健師に相談できるのが良いようで、サロン終了後も残って保健師に話を聞いている人もいた。</p> <p>午前 11 時 30 分にサロンは終了した。実習者は、子どもの笑顔を見たり、お母さんたちの話を聞かせていただく中で、サロンの重要性やお母さんたちがどのような思いでサロンに参加しているかを実感することができた。</p> <p><参加者> 10組26名 <スタッフ> 4名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した吹一地区子育てサロンでは、保育士や看護師等に協力を依頼し、保護者が気軽に相談できる体制を作っており、参加者からも新しい歌遊び等、個人では難しいことも覚えることができ、助かっているという意見からも、ニーズの高さがうかがえた。 ・1回だけの参加だとあっという間に終わってしまったので、複数箇所に参加してみたかったです。 ・考えていたよりも多くの方が参加していて、サロンが必要とされていることを強く感じた。活動内容はもっと工夫できるように思ったが、子どもたちはとても楽しそうで、意味のある時間になっていた。保健師の方が来ていたことが珍しく、非常に進んでいると感じた。 				

青山台地区子育てサロン		2月19日(金)10:30~12:15			
実習者	藤本 彰子(情報政策課)	担当	服部	社協	森本 加島
	玉木 亮介(千里再生室)		伊勢田		
内容	<p>10時20分すぎにサロン開催場所である青山台市民ホールへ。到着するとすでに、何組かの親子がサロンに来ており、おもちゃで遊んでいた。サロン開始前に、地区福祉委員長並びに地区福祉委員さんに挨拶し、サロン開始までCSWより、地区福祉委員会活動及び青山台地区の子育てサロンについて説明を受ける。</p> <p>10時30分ちょうどに、地区福祉委員長より、サロン参加者に対し、市職員の体験実習について説明をしてもらい、そのあと実習者も自己紹介を行う。</p> <p>青山台地区福祉委員さんの中には、元保育士さんがいて、その方が子育てサロンの進行をしていた。まず、当日出席していた3か月から3歳までの参加者の子どもの名前を呼び、その後、別の地区福祉委員さんがオルガンを弾き、その音楽に合わせて、参加者全員で手足遊びを行う。その後、大きな布をつかって、参加した子どもたちを包みこむ「大風こい」を実習者も手伝う。</p> <p>会場の雰囲気が和やかになったところで、母親たちは、折り紙を使ったお雛様づくりを始め、その間、福祉委員さんが子どもたちを見守る。実習者も母親たちをリラックスさせるために参加した子どもたちのお世話に奮闘。</p> <p>11時20分ごろになると、お雛様も出来上がり、誕生月の子どもたちにメダルをかけ、事務連絡の後、サロン終了。サロン参加者は、「初めて参加したがこういった活動に参加したかったので、参加できてよかった。また参加したい。」「毎月、参加している。そこにいけば、同じような仲間が誰かいてるので、楽しみにしている。また、友達も増えてよかった。」と話していた。</p> <p>また、サロン終了後に反省会に出席したが、地区福祉委員さんは、サロン開催により地域の広がりを実感しているが、参加者が増えるにつれ、場所が狭くなってきていて、制限をかけざるを得ないのが現状と話していた。</p> <p>地区福祉委員さんが、お母さんの負担を軽減するためにサロンを運営に尽力されているのが、よくわかったが、反面、地区福祉委員さんが活動しやすい環境整備をしていく必要があることが実感できた。</p> <p><参加者> 28名 <スタッフ> 8名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・だいたい想像どおりだったが、実際に体験できて、非常に良い経験となった。 ・子育てサロンとその後の反省会に参加しましたが、スタッフの方々の苦労や要望、母親の子育ての悩みについて生の声を聞き、活動の重要性を肌で感じる事ができました。こういった活動が継続しているのは、地域の方々のおかげであることを職員として知っておかねばならないと思いました。 				

古江台地区いきいきサロン		2月22日(月)13:30~15:30			
実習者	芦田 宏志(福祉総務課)	担当	伊勢田	社協	加島
	東田 康司(総合福祉会館)				
	藤田 陽子(総合福祉会館)				
内容	<p>サロンが開始する前に、CSWより古江台地区のサロンについての説明を受ける。</p> <p>1時30分ちょうどにサロンが始まり、まず地区福祉委員長より挨拶。本日のサロンは、市から職員が地域に出向いて、住民の方と一緒に健康体操を行う日であり、実習者も、参加者と地区福祉委員さんと一緒に輪になって座る。</p> <p>まず始めに、簡単にリラックスするために指体操を行い。その後、「お達者体操」と「すまいる体操」を曲目にあわせて、みんなで行う。体操が終了すると、呼吸を整えるためにストレッチ。そして、脳の活性化を目的として、お手玉を使った体操を、参加者と一緒になって実習者も行う。普段はデスクワークが多いためか、いいリフレッシュとなっていたようだ。</p> <p>体操が終わってから、コーヒブレイクのため茶話会を行う。</p> <p>茶話会には実習者も参加し、交流を深めていたが、参加者同士で普段の生活で困っていることを相談し合っており、サロン終了時には笑顔で帰路に着いていたのが印象的であった。</p> <p><参加者> 10名 <スタッフ> 10名</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン、いきいきサロンの両方に参加させてもらいました。子育て世代も高齢者の方も、気軽に行ける場所を求めておられるのがよくわかった。地域の中で住み続けるためには、制度以外の施策や地域の活動等が必要だと感じた。市民の声を直接聞くことも大事ですね。地域の地区福祉委員さんにもお会いできて、顔の見える関係づくりの一步にもなったと思う。 ・今まで地区福祉委員という名前は知っていましたが、具体的な活動等は知りませんでした。今回の実習を通して、その活動内容を知ることができ、また地域の方と交流ができて良かったと思います。 ・参加にあたって、地域の特性等の調べた上で、もっと目的意識(問題意識)を持って参加しても良かったかなと思いました。 				



古江台地区いきいきサロン

豊一地区いきいきサロン		2月25日(木)13:00~15:00		
実習者	山之内 博文(政策推進室) 澤田 美純(南吹田市民体育館)	担当	伊勢田	社協 中野
内容	<p>12時45分に豊一地区公民館に到着し、いきいきサロンの開催に向けて、スタッフ、参加者、実習者で机の準備などを行う。</p> <p>13時にサロン開始。まず始めに地区福祉委員さんより、サロンの参加者に体験実習の趣旨説明があり、自己紹介の後サロン開始。</p> <p>今回のいきいきサロンは、折り紙を使ってのカレンダー作り。表紙はトラ、1月は振袖、2月は鬼の面、3月はお雛様で、本日は先月から折っていたお雛様の仕上げを行う。</p> <p>福祉委員さんの手本に合わせて、参加者は折り紙でのお雛様づくりに取り組んでいたが、はさみで切ったり、糊付けしたりと細かい作業が多く、地区福祉委員さんのアドバイスを受けながら、折り紙をしていた。</p> <p>折り紙が終わると、ブレイクタイム。参加者にお菓子とお茶が配られ、スタッフと参加者に加えて実習者も一緒になってお互いに話し合っていた。</p> <p>ブレイクタイム終了後は、4月分のお釈迦様の折り紙に取り組む。</p> <p>実習者も参加するが、時間の都合で途中で退散することになったが、とてもいい体験で勉強になりましたと話していた。</p> <p><参加者> 8名 <スタッフ> 3名</p>			
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・折紙でカレンダーを作成する「いきいきサロン」に参加しました。私自身、折紙をするのが何十年ぶりだと思いますが、熱中してしまいました。参加されている方、皆さん非常に楽しそうで、日常の出来事等を話されながら折紙をされていました。当日参加するまでは不安な面もありましたが、とても有意義な時間でした。 ・スポーツ以外のことで地域の方がどのような活動をされているのか詳しく知らなかったもので、大変参考になりました。 			



豊一地区いきいきサロン

千新地区子育てサロン		3月3日(水)10:00~11:30			
実習者	荻野 安岐子(男女共同参画室)	担当	吉村	社協	西(謙)
	岡田 園子(わかたけ園) 田中 隆博(青少年クリエイティブセンター)				
内容	<p>昨年新しく誕生した千里山竹園児童センターで行っている、千新地区子育てサロンに参加した。最初に、担当の CSW から、千新地区子育てサロンの概要について話を聞く。千新地区は、昨年まで千里新田小学校で子育てサロンを行っていたが、児童センター完成に伴い、開催場所を変更したとのこと。いろいろな形態の子育てサロンがある中、千新地区では、「親子が集う場の提供」として行っているとのこと。</p> <p>真新しい児童センターでは、昨年よりも広がった部屋に、たくさんの親子が集っていた。部屋が広いことで、乳幼児の親子の集まりの輪と、動き回る子どもとお母さんの輪ができ、それぞれで情報交換をしたり話をしたりしていた。実習者は、子どもと遊んだり、参加されているお母さんから話を聞いたり、地区福祉委員さんから子育てサロンの概要や、千新地区における子育て支援の話等を聞いた。</p> <p>児童センターでの子育てサロン開催は、会場も広くなり、新しい施設で順調かに思えたが、一方で、児童センターに遊びに来たら子育てサロンを開催していたので参加した、といったような参加者が増え、「子育てサロン」に来ているという意識がない参加者が多くなってきたことが課題とのことだった。</p> <p>実習者にはわかたけ園の職員もおり、地域で障がいのある小さな子どもがサロンに参加できるかということも、今後考えていきたいとのことだった。</p> <p><参加者> 27組54名 <スタッフ> 4名</p>				
実習者の声	<p>・実際に地域福祉活動に参加させていただくことで、地域の人たちが自ら進んで、現状に必要なことを考えて作り上げることの重要性や、地域ニーズを反映する難しさ等、気づかせていただく点がたくさんありました。</p>				



吹二地区子育てサロン

吹二地区子育てサロン		3月4日(木)10:00~11:30			
実習者	遠藤 修一(職員研修所) 藤井 麻由子(職員研修所) 伊勢田 直道(地球環境課) 丸山 晋樹(工務室)	担当	伊勢田	社協	河原 中野
内容	<p>実習日当日は少し肌寒い日であったが、吹二地区集会所に到着すると、3月は「おわかれ会」ということで、サロン開始前にもかかわらず部屋中と狭しと、親子であふれかえっていた。</p> <p>サロンが始まる前に、地区福祉委員長ならびに地区福祉委員さんと自己紹介をし、その後、子育てサロンについての説明を受けるが、吹二地区の子育てサロン「ママーズ」は、実際に子育て中のお母さんが、サロンの企画・立案をし、地区福祉委員さんは、そのお手伝いをするという手法をとっているのが、他地区の子育てサロンと違う大きな特徴であるとのこと。サロンで使うものは基本的にはすべて、ママーズの役員さんの手作りであるとのこと。</p> <p>10時ちょうどにサロン開始。親子体操「ぐるぐるどかん」の後、「おはようの歌」を歌い、そのあと、輪になってお母さんが自分の子の名前を順番に呼んでいき、手遊び、手作りの紙芝居、おやつタイムと続く。実習者は子どもがとても好きで、この体験実習をととても楽しみにしており、積極的に子どもたちと触れ合っていた。また、他の実習者も、乳児を抱いて、お母さんや地区福祉委員さんとの交流を深めていた。</p> <p>おやつタイムが終わると、ママーズの役員さんによるアンパンマンの着ぐるみショーが始まり、子どもはもちろんのこと地区福祉委員さん、参加者、実習者もとても喜んでいて、このアンパンマンの着ぐるみも手作りとのこと、担当CSWも驚いていた。</p> <p>アンパンマンショーが終わり、保育園や幼稚園に入園するため、ママーズを卒業する子どもたちを紹介し、記念撮影。撮影終了後、4月から新年度になるためママーズの代表者のお母さんが交代に伴う挨拶をし、最後にみんなで輪になって「人間っていいな」を踊り、サロン終了。</p> <p>今回ママーズで、自分たちで着ぐるみをつくって踊るなど、子どもたちが楽しむいろいろな企画を実施しているのを目の当たりにし、サロンの運営は千差万別であるように、地域福祉推進の手法もさまざまであることを肌で実感できる実習であった。</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなに地域活動が盛んだとは思いませんでした。久しぶりに小さい子どもを見て和みました。 ・初めて参加させていただきましたが、地域の活動にボランティアさんも含め、あんなにたくさんの方が参加されていることに驚きました。 ・今回参加させていただいた地区は非常に活気のある人たちばかりでした。活動形態について、市内全域に拡大していけば良いと思いました。 				

8 参加者のアンケート結果

(1) 事前説明会について

実施時期		時間		
適当	不適当	短い	適当	長い
29人	0人	2人	26人	0人

内容		
よく分かった	分かった	分からなかった
15人	13人	1人

○事前説明会に参加する前の認知度

	地域福祉計画			社会福祉協議会		
	知っていた	名前だけ	知らなかった	知っていた	名前だけ	知らなかった
H21年度	15人 50.0%	11人 36.7%	4人 13.3%	17人 56.7%	10人 33.3%	3人 10.0%
H20年度	47.6%	33.3%	19.0%	66.7%	28.6%	4.8%

	地区福祉委員会			CSW		
	知っていた	名前だけ	知らなかった	知っていた	名前だけ	知らなかった
H21年度	11人 36.7%	10人 33.3%	9人 30.0%	15人 50.0%	7人 23.3%	8人 26.7%
H20年度	28.6%	38.1%	33.3%	42.9%	38.1%	19.0%

○事前説明会への意見

- ・地域福祉と直接関わる CSW の方の話や問題点、地域による活動の内容の差が聴けた座談会になりました。
- ・聞いたことはあるが、詳細まで知らないことがたくさんありました。
- ・CSW の方との座談会で、地域の実情や苦勞を聞くことで、福祉の難しさをうかがい知ることができ、大変勉強になりました。
- ・体験実習の際、CSW の話等たくさん教えていただき、勉強になりました。有難うございました。
- ・社会福祉協議会、地区福祉委員会、CSW それぞれの法的位置づけ、上下関係、包含関係、市との関係、収支など、詳しく知りたかった。それぞれが色々なことをやっているのはよく分かっているが、どういう位置づけなのか分からない。
- ・もっと講義の時間を長くして、社協のことや福祉委員のことをもっと教えてほしかったです。
- ・改めてそれぞれの役割や活動内容を知る機会となりました。
- ・地域ごとの施策をきめ細かくやるために、コミセンの基本構想の趣旨をいかして、積極的にコミセンを作っていくべきと思います。コミセンを拠点に福祉分野も地域包括支援センターや CSW も展開していくべきと考えます。

(2) 体験実習について

今までの地域福祉活動への参加 あり 8人・なし 23人

※感想については参加した地域福祉活動の参加報告にそれぞれ記載しています

(3) 研修全体について

- ・直接、福祉と関わる者以外にとって、活動の内容や実情を知る数少ない機会だと思います。大変役に立ちました。ありがとうございました。
- ・色々とお世話になり、ありがとうございました。
- ・貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- ・貴重な体験ができてよかったです。
- ・普段の業務では、福祉に接する機会がないこともあり、何も知らずに行きましたが、研修に参加したおかげで身近な問題として考えることができるようになりました。
- ・体験実習があったので、実態を見ることができて勉強になり、また、楽しく子どもや保護者とふれあうことができた。これからもぜひこの研修を続けてほしいと思う。
- ・機会があれば次回も参加したいです。
- ・事前講義もわかりやすく、とても勉強になりました。体験実習に参加させていただくことで、講義で聞いたことが実際に自分なりに理解でき、とても充実した実習だと思います。
- ・自分の担当地域と地域外にも参加することができてよかった。話を聞くだけでなく、体験にまざるものはないです。楽しく研修できました。ありがとうございました。福祉総務課の皆さん、社協の皆さん、お疲れさまでした。
- ・良いとりくみだと思うので、続けてほしい。また参加すると思います。
- ・これまで知らなかった吹田の福祉の現場に初めて触れ、今後どのように関わっていいのか、また、どのように関わっていったらよいのかを考えるいい機会になりました。
- ・多くの職員にこの研修を受けてもらいたいと思いました。
- ・講義、体験とも有意義であった。
- ・日ごろ身近に接しているCSWさんから活動内容を聞かせていただいたり、地域の状況を改めてうかがえ勉強になりました。地域福祉計画のおはなしも勉強になりました。
- ・今回見学に参加した子育てサロンには、思ったよりたくさんの方の母子の方が来られていて、このような場が地域で必要とされているということに改めて感じた。
- ・私たちの業務は、あらためて地域住民と行政が一緒になりすすめていくものであると感じ、また、今日、直接参加・体験型の研修により、日ごろからの問題点など、生の声も聞くこともできとてもよかったです。ありがとうございました。地域包括支援センターとして、今後もCSWと連携をとり、地域のネットワークをつくっていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・市役所を離れて、いろいろな方と直接お話できるので、貴重な経験になりました。
- ・この研修が、「吹田を知る」研修のひとつになったことは、非常に良かったと思います。これからも毎年続けていってください。

- ・日常生活動作の低下や重い障がいを持つことがないと、なかなか連携をもつことがない事業ですが、今回、交流を持つことで、市民に安心感を持ってもらえるような仕事をしなければと思いました。
- ・私の通常業務では、市民が相談に来られた時、「いかに早く福祉制度につなげられるか」を考えます。しかし、今回の研修を通して、市民が近隣の方、同世代の方、世代間での交流を定期的にできて仲良くふれあい、それがとても楽しいということが大事なのだと痛感しました。困った時の助け合いや、相手を思いやる気持ちは、このようなところから自然と育まれるからです。「地域力を高める」というのはたやすいですが、まずは継続して集える場所が不可欠ということも学びました。今回 CSW さんの言葉に、「市民が地域で助け合い、できるところは地域で支えあう。何でもすぐに行行政・制度ではなく、できるところまでやって、どうしても助けてほしいことを行政に相談する」という市民支援のあり方の大事さを学ばせていただいたと思います。バリアフリーで費用のできるだけかからない場所の確保や、現状の整備が、行政としてしなければならないことも具体的に知ることができました。ありがとうございました。
- ・地域の皆さんが主体で催されている行事に参加する機会があまりないので、勉強になりました。
- ・日ごろは市民の方に市役所に足を運んでいただいている立場ですが、行政側から地域に出かけていくことも必要だと思いました。
- ・社協や CSW や福祉委員の方に職場でお会いすることがあっても、どのようなことをされているのか、知る機会がなかったのですが、身近なものになり、とてもいい経験をさせていただきました。
- ・引率の福祉総務課の方がおっしゃっていたように、地域に出て行って、直に体験するということが大切だと思います。また、市民の方が自分たちで地域のコミュニティを育てていくために、市役所がどんなサポートができるのか、考えていくきっかけとなりました。
- ・CSW が活躍されているのがよくわかった。
- ・講義だけでなく体験実習に参加することで、多くの人によって地域福祉活動が支えられているということが分かり、参加することができよかったです。
- ・高齢社会が進む中で、市民体育館としてどのように市民の方の体力低下、介護予防に携われるかと思い、参加させていただき、課題がいろいろ見えました。研修を通じて、地域の方と交流を持ち、ニーズなどを把握できる場もあればうれしいなあと思いました。

